広報にいつ

発行所　新津市役所
電話代表550番
発行人　窪田繁雄
印刷所　東洋館印刷所
毎月一回5日発行
（定価一部2円）

大新津市発足

合併祝賀式挙行　全市に轟く花火

金津、小合両村の新津市への合併は別項総理府告示により決定、四月一日から面積六九、九〇平方キロメートル、戸数九千三百六十一戸の人口五万二千三百六十五人の大新津市となり市勢発展上一期を画し新たな発足をしたが、この日両村役場は支所となり市ではそれぞれの支所長を任命、開所式を行い窪田市長から挨拶があつた。

また合併祝賀式典は共る四月九日午前十時三十分全市にとどろく花火を合図に市立第五中学校講堂で地元衆・参両院議員、県議会議員、関係官公衙長、市議会議員、各種委員、市内団体長など約六百余名参列のもとに挙行された。

式は先ず一同国歌斉唱の後市長の式辞があり続いて県知事、市議会議長、地元国会議員、県議会議長（桂県議会議員代読）、新潟県市議会議長会長、新潟鉄道管理局長（代読）、中蒲原郡町村長会長などの祝辞が述べられ、新津市の前途を祝福して竣しゆく裡に終了した。

総理府の合併告示

かねて手続中であつた金津村及び小合村との合併のことは次のとおり内閣総理大臣から告示された。

◎総理府告示第五百七十九号

市村の廃置分合

地方自治法第七条第一項の規定により、新潟県中蒲原郡金津村及び小合村を廃止し、その区域を新津市に編入する旨、新潟県知事から届出があつた。右の廃置分合は、昭和三十年四月一日からその効力を生ずるものとする。

昭和三十年三月二十九日
内閣総理大臣　鳩山一郎

金津、小合閉村式挙行

市村合併により、三月三十一日で閉村を告げた金津村及び小合村では三月二十八日（金津）及び三月三十日（小合）の両日それぞれ村長司会で地方事務所長、地元県議、中蒲原郡町村長会長、同議長会長、新津市長及び同議会議長などの来賓参列のもとに村内各百五十名のおもだちが参加して厳しゆく裡に将来の発展を祈りつつ閉村の式典を行つた。

写真説明
（上）は合併祝賀式場
（右）は小合支所の看板を掲げる窪田市長
（左）は金津支所の看板を掲げる支所長

両支所長（金津・佐藤氏 小合・高橋氏）を任命

支所事務は従前通り

市村合併により四月一日から金津支所及び小合支所を置くこととなつたが、その支所長を同日付次のとおり任命された。

（前金津村助役）佐藤昌一
新津市主事に任ずる
新津市役所金津支所長を命ずる

（前小合村長）高橋健吾
新津市主事に任ずる
新津市役所小合支所長を命ずる

なお支所の事務は従来の役場同様取扱うほか保健婦一名がそれぞれ常駐する。

一、戸籍及び住民登録に関する一切のことがら
一、配給に関することがら
一、市税等他の徴収に関することがら
一、市税の諸届出に関することがら
一、農業委員会に関することがら
一、消防団に関することがら
一、埋火葬認許に関することがら
一、国民健康保健に関することがら
一、以上に関係する証明事項

また四月一日以后金津小合支所で取扱う選挙事務は次のとおり

一、補充選挙人名簿登録申請書の受理
二、不在者投票事務

市議定数三十六名に

有権者二万八千三百名

合併により本市人口は一躍五万二千三百六十五名となつたが、このため地方自治法によつて市議会議員の定数も現在の三十名から三十六名となり、今回の市議改選から適用されることになつた。

また投票区、投票所及び有権者数は二面別表の通りで投票区は十一区から二十一区にふえ、有権者数は合併前の二万一千四百六十四名から二万八千三百十八名（男一万三千二百八十二名、女一万五千三十六名）にふくれ上つた。

（市選挙管理委員会）

あらゆる角度から

工業開發調査着手

日大、小野博士ら来市

【既報】かねて本市から日大国土綜合開発研究所に依頼中の工業開発基本調査はいよいよ実施されることになりこれが下打合と現地視察のため三月五日研究所次長小野工学博士と田谷事務長が来市して市当局、遠藤県企画課長、山本地方事務所長等と打合を行い市内の情勢と都市計画の概要につき説明を聴取した後能代阿賀両川の流域、満願寺の水道浄水場、秋葉山の中心部、旧石川島跡地等を詳細視察したが、本格的調査は五月となる予定それまでに調査に要する資料の蒐集と調査事項及び調査班の編成等の準備工作がなされるがこの画期的調査によつて、工場誘致運動に一段と拍車がかけられるが市民の協力が更に切望されている。なお小野博士は次のように語つた。

新津市の工業開発を考えるとき新潟市と密接の関係があるので、新津は当然新潟市の開発計画の一環として取り上げるべきで県並びに新潟市にも充分連絡して置く必要がある。工場誘致の場合を見ても両市とも同一業種の工場を建設すれば競合関係が生じ面白くないからその辺は調節して行くべきである。

調査内容は参考資料を検討した上で決定することになるが、あらゆる角度から綜合的に調査を進めて行きたい。新津市の当面の問題は工場誘致にあることは勿論だが、ただ市当局だけの専念すべきものでなく全市民も関心を持ち全面的に協力してこそ始めて実現されるのであるから大いに世論を起してもらいたい。

（商工課）

教委、参与十三名で

任期間市教育行政を担当

市の教育委員定数は五名であるが、合併後は金津、小合両村の教育委員がそれぞれ協議の上互選した二名の委員が加わつて現在の新津市教育委員の任期間は定数が七名に増加することになつた。

このためさきに両村教育委員の協議会がもたれ互選の結果、金津教育委員会から海津幸一氏と小合教育委員会からは石月謙造氏の二名が選ばれた。

また旧金津、小合両村地区の教育行政の円滑を期すため互選にもれた両村の教育委員は任期間参与として会議に出席することになつたので、実際は委員の任期満了の日である来年の十月四日までは委員、参与合せて十三名で市の教育行政を担当することになる。

共栄圏の自然の姿

祝辞　新津市長　窪田繁雄

当市が去る四月一日を期し隣接の金津、小合の両村を合併し大新津市建設の基盤を強固にすることのできましたことは五万三千の市民とともにまことに御同慶に堪えません。

顧みれば、当市は県都新潟市の表玄関に当る鉄道その他交通の要衝をしめる蒲原平野の中心都市であつて、大正十四年十一月阿賀浦、満日、の両村を合併し更に、昭和十四年十一月には荻川村を合併、昭和二十六年一月市制を施行して逐年躍進の一途を辿つてきたのであります。

たまたま町村合併促進法が実施せられ地方自治の確立という、国策の要請によつて合併の機運が急速に醸成され、関係御当局、議員並びに住民各位の御熱意と御協力によりましてここに市村合併の実現となり面積六九、九平方キロ人口五万二千三百六十五人を擁する農、商、工鉱業の各種産業並びに勤労者を一体とした多角的な都市を形成することとなつたのであります。

思うに金津村及び小合村の中心部は、共にそれぞれ本市の中心街から三、五キロの近接距離に位置し、且つ両村共にその一部が新津市の市街に連担櫛比し産業、経済、教育文化、交通、風俗、習慣など殆ど類似共通しており特に経済圏も全く同一であつて社会的にも経済的にも既に一つの自治体として発展すべき条件の下にあつたわけであります。この点から見まして今次の合併は同一共栄圏の当然相寄るべきものが一つとなつた自然の姿であり、一面大新津市建設に対する新津市民の理想と金津、小合の両村民の将来に対する希望が完全に一致した結果であると堅く信じております。

申すまでもなく合併によつて各般の施設が直ちに飛躍的に進渉向上をもたらさないでありましょうが、旧市のえん賑な商店街を中心として豊饒な田園を包含し風光明美の秋葉山と、全国的に有名な信濃川河畔の小合の花園を擁し、本県の油田発祥の地としての広範な油田地帯を控え将来益々隆盛を予想される商工都市として、はた又観光都市として今後益々市民の繁栄と豊な生活が約束されているものと信じておるものであります。

希わくは全市民各位和衷一致相たずさえて新市建設のために格段の御協力を賜わらんことを。

官公衙六十六に増加

合併にともない官公衙数は従来の五十八から六十六に増加したが、各官公衙は次の通りである。

新津税務署、新津区検察庁、新津簡易裁判所、新潟地方法務局新津出張所、建設省関東地方建設局阿賀野川工事々務所、新津労働基準監督署、新津郵便局、新津駅前郵便局、新津新町郵便局、中新田郵便局、荻川郵便局、新津電報電話局、新潟県統計調査事務所新津出張所、新潟食糧事務所新津支所、新潟食糧事務所新津支所新津出張所、専売公社新津出張所、国有鉄道新津駅、同荻川駅、同東新津駅、同新津車掌区、同新津保線区、同新津建築区、同新津電務区、同新津電力区、同新津信号通信区、同新津信号通信工事区、同新津機関区、同新津機械区、同新津電修場、同新津材修場、同新津客貨車区、同新津工場、同東診療所、同西診療所、同新津鉄道公安室、同新潟物資部新津事業所、同新津駐在輸送長、新津市役所、中蒲原地方事務所、新津保健所、新津家畜保健衛生所、新津土木出張所、教育庁中蒲原出張所、新津公共職業安定所、新潟県農事試験場園芸部、新津地区農業改良普及事務所、新津警察署、新津市消防署、新津郷土地改良区、新津土地改良区、新津農業協同組合、荻川農業協同組合、新津生活用品商業協同組合、新潟県指導連中蒲原郡支部、新潟県信用連中蒲原郡支部、新潟県経済連中蒲原郡支部、新潟県共済連中蒲原郡支部、新津市役所金津支所、中村郵便局、金津郵便局、新津警察署中村駐在所、新津駐在所、同金津駐在所、新津市役所、小合支所、小合郵便局、新津警察署小合駐在所。